

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

小38 町田市立小山小学校

学力調査等の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語も算数も平均正答数で1問程度、東京都、全国と比べると低い。 	
【国語】 <ul style="list-style-type: none"> ・「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」の正答率が低い。また、「話すこと・聞くこと」については、東京都、全国と比べると15%ほど正答率が低くなっている。 ・「書くこと」においては、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが苦手である。 ・他の問題形式に比べても記述式の問題の正答率は、東京都や全国と比べて15%以上低く、無回答率が高い。 ・「話すこと・聞くこと」においては、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが苦手である。 	
【算数】 <ul style="list-style-type: none"> ・特に「図形」の領域の正答率が低い。図形の意味や性質についての理解度が低く、図の手順からどのような図形ができるか判断したり、その理由を言葉や数を用いて記述したりすることに課題がある。 ・記述式の問題形式の正答率が低く、考えを式などに表して解答を導くことが苦手である。 	

見えてきた課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめ、表現することに課題がある。一単位時間や単元計画の中で、児童が考えて表現する場面を意図的に設定し、自分の考えを様々な形で表現することができるようにしていく。 ・毎時間めあてに沿って学習を振り返り、自分の考えや学びを振り返る時間を設定する必要がある。 ・東京ベータシグドルの診断テストの結果も踏まえて、各学年で苦手としている領域などについて、授業の最初や朝の時間などを活用して、計算や活用問題などに取り組んでいく。 ・授業の最初の時間やモジュール・計算タイム等を活用し、計算問題や漢字、苦手な領域の習熟を行い、基礎基本の徹底に努める。 	

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科のねらいや、教科毎に掲げる「見方・考え方」に留意しながら、小中学校9年間を見通した内容の系統性を踏まえた意図的・計画的な指導を実施する。 ・一単位時間(本時)のねらいを分かりやすく示し、児童の興味・関心を高め、主体的な学習を促す。 ・ICT機器を活用し、課題の提示を工夫していく。
振り返りの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終末には本時のめあてを振り返らせ、自分の言葉で本時の学習について自己評価をさせていく。 ・自分で課題解決の手順に対して振り返ることで次時の学習の見通しをもたせる。
ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じて、各教科における課題の提示を工夫したり、Chromebookの共同編集作業に取り組ませたりして、児童の気付きを促したり、考えを深めたりしていく。 ・ICT機器が活用できるように、ローマ字入力取得など、児童一人一人の操作の技能を向上させるとともに情報モラルについても計画的に指導していく。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・話型や話し合いの仕方を提示したり、ペアや小グループでの発表の機会を設けたりし、自信をもって発表できるようにする。 ・児童の実態に合わせたモデル文やワークシートを作成し、書く力の向上を目指す。 ・文学的文章や説明的文章の読み方を各学年の実態に合わせ、段階的・系統的に指導する。 ・国語辞典の使用を習慣化する。 ・漢字の小テストを繰り返し行い、漢字の定着を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の際、姿勢や発音・発声に注意しながら話すことができるように指導する。 ・「は」「を」「へ」や拗音、促音などを正しく書けるよう、細かく指導する。 ・思いや考えが明確になるよう、事柄の順序を考えて簡単な構成が作れるように指導する。 ・友達の見聞に対して感想を伝え合い、互いの良いところに気付けるような場を設定する。 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することで、物語を楽しみ、学習意欲が高まるような工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が低いという実態がある。朝読書やモジュールの時間を活用し、語彙力を身に付けさせるような指導を行う。 ・話型を示してスピーチを行う。発表する機会を通して自信を付けさせる。 ・Chromebookを活用し、形式に沿って文章を書く指導を継続して行い、書く力を育てる。 ・他者の意見に耳を傾け、自分の意見を深めたり相違点を見出したりできる指導の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった導入や展開のために、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を明確にする。例えば、学習課題をはっきりと設定したり、モデル文を示したりする。 ・視点を明確にした振り返り活動を行う。 ・初読の感想を集約する、作文の構想を練るなど、chromebookを活用して学習の効率化を図る。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して驚きや疑問がわくような資料を提示し、興味・関心を高める。 ・資料を精選し、読みとる視点を明確にすることで、グラフや図を読み取る力を養う。 ・授業初めのミニテストやゲーム等を定期的に行い、基本的な知識の定着を図る。 ・児童の問題意識を大切にし、主体的に取り組むことができる学習活動を計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ・3年生に向けて町探検の中で、標識や働く人々や建物に視点を置かせ、3年生の学習に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図記号や都道府県などの名称や用語を理解することに苦戦している。視覚的な資料や小テストなどを定期的に行い、繰り返し用語に触れさせることで習熟を図る。 ・資料の見方が分からず、何をしたらよいかわからなかったり、読み取ったことを生かして次の学習につなげていくことが苦手な様子がある。ICTを活用して、読み取り方を丁寧に示していく。 ・地域の様子や都道府県の伝統などに興味をもち、自主学習等で取り組む意欲を認め励ます。 ・学習で発見したことや疑問に思ったことを記録し、学びの深まりや広がりを感じられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料活用能力を育てるために、「資料の見方」「考える視点(予想、比較、考察等)」などを丁寧に教える。また、資料から考えたことをもとに学習課題を設定し、見通しをもたせる導入を行う。 ・次回の学習をイメージできるような振り返り活動を行う。 ・教師がデジタル教科書を活用し、わかりやすい資料提示等を行う。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の流れの基本を定め、授業に取り組む姿勢を整える。 習熟度に応じて、教材・教具を工夫する。 興味がもてるよう、掲示物や題材を工夫して提示する。 自力で課題を解決ができるよう、習熟度に応じて問題の数値を変更したり、支援の範囲を工夫したりする。 ペアタイムや小集団の話し合いを充実させ、考え方の共有や相違点の発見ができるようにする。 計算方法や、用具の使い方が身に付くよう、演習時間を十分に確保する。 navimaなどのICTを活用し、既習事項に反復して取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物や題材を身近なものにしたり、具体物を操作したりし、数の実感を伴って学習できるように支援していく。 話し合い活動を通し、考えを伝え合う活動を1時間の中に取り入れる。 復習に取り組む時間を設け、学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的思考が自然と身に付くよう授業の開始に算数アクティビティに取り組む。 前時の復習プリントに取り組み、確実に身に付けられるようにする。 視覚的に捉えられるよう効果的にデジタル教科書を使う。 自分の考えを発表できるように、話型を示したり、図に表したりできるようにする。 単元の復習段階では、Kahoot等を使い、ICTを利用して確実に楽しく復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間の中で、自力解決・集団検討の時間を明確にして問題解決への姿勢を養う。 習熟度別展開ではないので、全体で解決する問題の数値を工夫したり、ICTの活用で個々にあった問題に取り組んだりして習熟を図るようにする。 復習に取り組む時間を定期的に取り入れ、学習がスムーズに進むようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のプロセスに沿って、学習を進められるように学習展開を工夫する。各学年における育成すべき重点的な問題解決能力を意識して指導する。 事象提示はなるべく具体物を扱う。 また、理科の見方・考え方を働かせることができるようにする。 実験や観察は、なるべく一人一具体物に接して学習できるように配慮する。 	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> 生活科の学習において、具体物である動物に触れたり、植物を育てたりする活動を通し、自然事象への興味、関心を育む。その中で感じた「なぜ?」という気持ちを尊重し、中学年以降の学習につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験等の体験活動や比較する活動を通して、知識の理解を深め、技能を習得し学習をより確かなものにする。 各学年で重点的に指導する問題解決のプロセスを意識して、指導する。(3年生の問題づくり、4年生の根拠ある予想) 単元の導入で、学習に関する事象を共通体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決能力を高めるために、児童の実態に合わせて単元内での各問題解決プロセスでの軽重をつけた指導計画を考える。 学習を主体的に行うために、事象提示や体験から様々な考えを立てられるよう見方・考え方を働かせる工夫をする。(予想場面の充実や実験・観察をできるだけ個人で取り組めるようにする。)
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 単元によっては、行事や天候に左右されるため、早めに計画を進めていく。 観察カードをもとに友達と学び合える活動を計画していく。 考えや思考を深めるための視点を明確にするワークシートや板書カードを使用する。 児童が、活動の前と後でどのように変容したのか自覚できるように、初めの思い、学習後の感想などを記録しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動を通し、身近な人や社会、自然のよさに気付き親しみをもてるよう、指導計画を行う。 自分の体験の中から、考えや思考を深めるために、ワークシートやChromebookを活用し、可視化を図る。 思いや願いを実現する活動を通し、児童が自身の変容に気づくことができるよう、発言や思いを記録していく。 	/	/
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 身体表現やリズム遊び、少人数活動等、多様な学習形態による活動を通して、表現に対する意欲や意識を高める。 題材ごとに習得すべき技能を絞り、スモールステップで学習する。 鑑賞活動を通して高まった音楽的な感覚を表現につなげるため、振り返りの学習を行い、技能の向上につなげていく。 様々な様子や感情を表す言葉を示すことで、自分の思いを言葉で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、発声や発音に気を付けて、体全体で音楽を感じながら表現できるように指導する。鍵盤ハーモニカを中心に、パートの役割を理解して合奏できるように指導する。 体全体で音楽を表現したり、グループで等、表現に対する意識を高める。 季節や日常に合わせた楽曲に触れ、学習内容と日常生活を関連付けさせる。 スモールステップを設定し、一つ一つ達成感をもたせながら指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞から学んだことを、歌唱や楽器に生かす指導を行っていく。 体全体で音楽を表現したり、テーマに合わせたリズムや音づくりをグループで考えたりする等、表現に対する意欲や意識を高める。 季節や日常に合わせた楽曲に触れ、学習内容と日常生活を関連付けさせる。 スモールステップを設定し、一つ一つ達成感をもたせながら指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを表現したいことに活かす学習活動を設定する。 ICT機器を活用し、視覚と聴覚に働きかけながら音楽表現を指導する。 知識、技能を音楽表現に活かす活動を設定し、知識、技能の定着を図る。 題材のはじめ、授業のはじめに学習の見通しをもたせる。 学習内容と身近な音楽とを関連付け指導する。 スモールステップを設定し、達成感をもたせながら大目標に向かわせる。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料や用具を、発達段階に合わせて段階的に扱うよう指導計画をたてることで、実感的理解を深め、発想・構想の力を伸ばすようにする。 必要に応じて前の学年で経験したものを繰り返し扱うことで技術の定着を図る。 さまざまな用具を扱うことで、表現の幅を広げられるようにする。 児童の思いに合わせて、表現方法を選択できるようにする。 お互いの作品や身近な美術作品の鑑賞を通して、意見を伝え合い、考えや気付きを共有させることで、見方や感じ方を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を定着させるために使い方や片付け方等を中心に、技術習得に向けた指導を行う。 完成までの見通しをもたせるために、学習全体の流れを最初に提示し、計画的に進められるように指導する。 導入時に実物や写真をみせて、想像を広げる。 互いの作品の鑑賞を通して意見や良さを伝え合い、考えや気付きを共有させることで、見方や感じ方を養う。 作品だけでなく、その過程やつぶやきを記録し、指導にあたる。その際に十分な価値付けや称賛の声掛けを行い、意欲が継続するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を定着させるために使い方や片付け方等を中心に、技術習得に向けた指導を行う。 完成までの見通しをもたせるために、学習全体の流れを最初に提示し、計画的に進められるように指導する。 児童の発想を広げるために作品例を多く提示し、様々な素材と出会えるような教材の選定を行う。 作品だけでなく、その過程やつぶやきを記録し、指導にあたる。その際に十分な価値付けや称賛の声掛けを行い、意欲が継続するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を定着させるために使い方や片付け方等を中心に、技術習得に向けた指導を行う。 製作活動や鑑賞活動においてポイントを提示し、児童相互の交流する時間を確保しながら、児童の発想が広がるように支援していく。 作品例をできるだけたくさん提示し、鑑賞を通して、表現の幅が広げられるようにする。 作品だけでなく、その過程やつぶやきを記録し、指導にあたる。その際に十分な価値付けや称賛の声掛けを行い、意欲が継続するように指導する。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を教具に用いて体験をさせながら考えさせる。 ・学習したことを家庭で実践する機会を設けることでよりよい生活を工夫できるように考えさせる。 ・安全な道具の使い方を繰り返し指導する。 ・技能の定着を図るために題材の配列を工夫したり児童同士の教え合いを活用する。 ・具体物や視聴覚機器を工夫して理解を図る。 ・生活を見つめさせることで実感を伴った理解につなげる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・各題材における身に付けるべき知識及び生活技能を示し、ねらいを達成できるように手だてをしていく。 ・実際の家庭生活のなかで、家族の一員として、家庭科で身に付けた知識・及び技能を活用し、生活をよりよくしようと課題に取り組んだり、生活を改善したりして、自ら課題を解決できる児童を育成するようにする。 ・被服実習の授業導入では、製作見本に力を入れ製作意欲を刺激し、モチベーションを高める工夫をしていく。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・低中高の系統性を踏まえた年間指導計画、各単元の指導計画を作成する。 ・安全で楽しい体育、運動嫌いをなくす体育、体力向上につながる体育を目指す。(1単位時間の授業展開の工夫、安全指導、場や用具の工夫、発問や言葉掛けの工夫など) ・運動・健康について主体的・対話的に課題を解決していく姿を引き出す指導の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学年との系統性を踏まえ、単元のゴールイメージをもてるような指導計画の作成。 ・動画やカードを活用し、イメージをもって運動に取り組めるようにする。 ・友達の運動の様子を見合うことを意識させ、気が付いたことを伝えられるように運動の場や方法を工夫する。 ・運動を苦手に感じている児童も取り組めるように、主運動につながる補助運動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・系統性を踏まえた年間指導計画、各単元の指導計画の作成と指導。 ・身に付けさせたい技能については、日常でも取り組めるよう声掛けや場の工夫を行う。 ・Chromebookを活用した授業の実施。(動画撮影による技能の確認、模範演技の確認) ・ゲーム領域では規則や作戦を選択させたり、陸上領域では自分自身の課題に合った場で練習させたりする。 ・各領域がもつ特性の良さに触れ、運動の楽しさを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1単位時間の流れを定型化し、流れに沿って児童が主体的に行動できるようにする。 ・器械運動を中心に、ICT機器を活用した学びあい、教えあい活動を取り入れることでより対話的に課題を解決し、必要な技能の定着を図っていく。 ・系統性を鑑み、これまで取り組んできた学習を児童に振り返らせ、足りない技能、身に付けさせたい技能を明確にした授業展開を工夫していく。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めにゴールの姿や活動を示し、見通しを持たせる。 ・ICT機器を活用したり、共通のクラスルームイングリッシュを使ったりすることでオールイングリッシュの授業を目指す。 ・学んだ内容を用いた言語活動を学期末に設定し、知識の定着を図る。 ・学習の振り返りの視点を示し、児童が学びや成長を実感できるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、視覚的な補助を行いながら英語表現を指導する。 ・学んだ内容を用いた言語活動を設定し知識の定着を図る。 ・学んだ表現を用いて自分のことを表現する学習活動を設定する。 ・単元の導入で、学習に関する見通しをもたせる。 ・学習計画を児童と共に立て、主体的に活動に取り組めるようにする。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方を身に付けさせるために「課題の設定」「情報の収集」「整理分析」「まとめ、表現」という探究の過程を明確に提示し、児童が意識しながら学習を進められるようにする。 ・課題を探究しようとする児童の意欲と意識を高めるために、導入の仕方を工夫したり、体験活動を計画したりする。 ・共通体験をもとに、課題探究の方法を提示したり思考ツールを活用したりし、課題設定の力を培う。 ・友達と協働して学ぶ場面を計画的に設け、友達の意見を生かし、より自分の考えを適切に伝えたり、深めたりできるように指導する。 ・地域の方との関わりを重視し、相手や場に応じて適切な態度で接することができるよう指導する。 <p>【他教科との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科での基礎・基本の学習をしっかりと積み重ね、関連を図る。 ・国語の授業と関連付けて、体験活動と言語活動をともに充実させる。(言語活動との関連) 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の本音の思いや振り返りに学級全体で共有し、協働的に学習を進めることができるようにする。 ・地域との関わりを重視し、学習を通して自分たちの住む地域に愛着をもてるようにする。 ・思考ツールやICTを活用して、意見を共有したり、情報を整理したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願いを生かした課題設定を行うことで、「なぜこの学習を進めているのか」という課題意識を児童にもたせ、1単位時間の導入をスムーズに行えるようにする。 ・毎時間、児童の「本音」を引き出すための振り返り活動を行う。また、振り返りの結果は適宜学級で共有し、今後の学習活動に反映できるようにする。 ・「インターネット検索」「動画視聴」「即時共有」「共同編集」等、chromebookの強みを生かせる場面で適切に活用する。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を振り返る活動や、話し合い活動を通じた他者理解の充実をねらった授業展開の工夫をする。 ・評価の充実に向けた、児童の見取り方の工夫(ワークシート、座席表、アンケート等の活用) ・ICT機器を活用した効果的な指導法の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に合わせたワークシートの活用。 ・1年間の変容を見取ることができるよう、ワークシートをファイルに蓄積していく。 ・終末で自分自身を見つめ直す時間を作れるワークシートの工夫。 ・低学年でも可能なICTの活用(挿絵をスクリーンに写す以外)を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロームブックやジャムボードを活用し、一人一人の考えを共有することができた。今後もさまざまな考えに触れ、価値項目について考えられるよう、ICT機器の活用を進めていく。 ・授業で使用したワークシートを蓄積していき、いつでも振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題を明確に提示する。ただし、原則、5分以上かけて導入を行わないように留意する。また、心を込めた範読により、児童を教材の世界に引き込む。 ・主題に合った発問を精選し、これからの自分の生き方について考えを深められるようにする。 ・事前アンケートや意見の共有など、適宜ICTを活用する。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動では、自ら課題を見つけ解決する実践力、仕事をやり抜く責任感、リーダーシップとフォロワーシップを育成するために、意欲的に取り組めるよう手引きを作成し、指導を工夫する。 クラブ活動では自主的実践的態度や好きなことを伸ばしながら仲間を思いやれる態度を育成するため、自ら活動する力を育てる。 たてわり活動では、主体的で対話的な活動にするために、リーダーが中心になって企画する機会を多くもたせ、その中でリーダーシップやフォロワーシップを育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一役の係活動を行っていく。 意欲的に活動することができるように自分の活動を振り返る時間の工夫。 主体的で対話的な活動にするために、子供たち一人ひとりの考えを引き出すような言葉がけをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一役の係活動を行っていく。 学級での困り事や学級でやりたいことを提案して、学級会等クラス内で話し合いの場を作り自ら解決していく。 児童をどのように成長させたいか見通しを持って単元を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間の活動の見通しをもたせ、活動計画を教師と児童が協同して考えるようにする。 委員会活動やクラブ活動のねらいに合わせて、各委員会、各クラブの目標を決定する。その目標に合わせた振り返り活動を適時行い、児童が自己の成長に気付けるように指導する。 専用のクラスルームを作成して意見共有や連絡を行ったり、発表のためのスライドを作成したりする。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 場面設定を工夫し、児童が意欲的に活動に取り組めるようにする。 英語を話す機会を多く設けて、児童に自信をもたせる。 ICTを活用し、外国語の音声や表現について、日本語との違いに気付かせる。 言語活動の途中で中間評価を入れ、より良いコミュニケーション姿を児童に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら外国語に親しめるよう、あいさつや気持ちなど知っている場面を多く設ける。 ALTの生きた外国語の音声を聞いたり、表情に気付かせたりし、ゲームを通して友達との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標表現を必然的に活用する場面を設定し、児童が意欲的に活動に取り組めるようにする。 全体やペア、グループ活動の中で英語を話す機会を多く設けて、児童に自信をもたせる。 外国語の音声や表現について、日本語との違いに気付かせる。 	